

医療の社会史

— 生・老・病・死 —

▶A5判・304頁・定価 2,940円 (税5%込)

ISBN978-4-7842-1677-2

本書は、京都橘大学女性歴史文化研究所の研究プロジェクトの成果のひとつで、医療の社会的展開が通史的にうかがえるようにすることを企図した論文9本・コラム4本を収録。京都橘大学スタッフによる最新の研究成果を盛り込む。

◎ 内容目次 ◎

I 中古・近世の医療と社会

平安中後期における貴族と医師……増淵徹 (文学部教授)
藤原実資と和氣相成・丹波忠明／藤原師通・忠実と丹波忠康
・重康／施薬院使と医家丹波氏

鎌倉幕府の医師……細川涼一 (文学部教授)
丹波時長の鎌倉下向と三幡の治療—源氏将軍の時代／「尼将軍」北条政子時代の医師—丹波頼経 (良基) と和氣定基／摂家将軍九条頼経の医師／摂家将軍九条頼嗣時代の医師—結番医道体制の確立／公家将軍宗尊親王の医師—丹波忠茂と丹波長世／『関東往還記』の丹波忠茂と丹波長世

『本草綱目』に見る中国医療の到達点……島居一康 (文学部教授)
『本草綱目』の版本について／『本草綱目』の成立過程／「綱」と「目」—『本草綱目』における薬物分類の新機軸／中国医学史における『本草綱目』の到達点

《コラム》敦煌石窟壁画からみた民衆の喪葬礼儀—「老人入墓図」を取り上げて…王衛明 (文学部教授)

室町・戦国期の山科家の医療と「家薬」の形成—「三位法眼家傳秘方」をめぐって……米澤洋子 (非常勤講師)
山科家と医療Ⅰ—教言から言国へ／山科家と医療Ⅱ—言綱と「三位法眼家傳秘方」／山科家と医療Ⅲ—言継と「家薬」の形成

曲直瀬玄朔とその患者たち……田端泰子 (名誉教授)
曲直瀬玄朔と曲直瀬家／『玄朔道三配剂録』とは／診察の態度と患者たち

《コラム》モンゴル時代の文化交流—医術のケース……小野浩 (文学部教授)

II 近・現代の医療と社会

幕末京都における医家と医療…有坂道子 (文学部准教授)
病と治療／京医の種痘活動／小石究理堂での学び

明治前期の村と衛生・病気—京都府乙訓郡上植野村を対象に……高久嶺之介 (文学部教授)
明治前期の京都府乙訓郡上植野村の概略／明治前期の乙訓郡に医者ほど程いたか／種痘の開始／伝染病への対応／置き薬の世界／六人部講の成立

《コラム》W.B.イエイツ・シュタイナッハ手術・長寿法……浅井雅志 (人間発達学部教授)

錯乱と崇りの間—森嶋外『蛇』の問題圏……野村幸一郎 (文学部教授)
(知性)の近代／自我の彼岸／全体性への憧憬

母乳が政治性を帯びるとき—世紀転換期ドイツにおける乳児保護の実態と言説……南直人 (文学部教授)

乳児死亡率問題／都市における乳児保護のための諸施策—ベルリンを例として／母乳哺育推進か、人工乳改良か—小児医学と乳児保護運動

《コラム》日本の看護基礎教育における死の教育についての概観……奥野茂代 (非常勤講師)

あとがき／執筆者紹介

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)		
冊数	冊	医療の社会史	本体2,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1677-2		
お名前	tel					
	e-mail					
ご住所	〒		書店番線印			
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)		本書HPのQRコード			

京都の女性史

京都橋女子大学女性歴史文化研究所編

平安時代から近代まで、京都に生きた女性に視点を据えた論文8本。同研究所に所蔵されている『遊客名簿』の分析を通してこれまであまり取り上げられてこなかった近代京都の遊郭について明らかにした論文など、最新の研究成果が盛り込まれている。【内容】藤原寛子とその時代／藤原道綱母から菅原孝標女へ／戦国期の「家」と女性 他

▶A5判・242頁／定価2,520円

ISBN4-7842-1123-3

京の鴨川と橋 その歴史と生活

門脇禎二・朝尾直弘編

歴史都市京都のシンボリック的存在である鴨川とそこに架かる橋について、平安京以前から昭和まで、各時代の様子を具体的に明らかにし、人々の暮らしの中でどのような意味を持っていたかを探る。

【内容】山代(山脊)のカモ川／賀茂川と平安京／橋と寺社・関所の修造事業／四条・五条橋の橋筋進と一条戻橋の橋寺 他

▶46判・250頁／定価2,310円

ISBN4-7842-1082-2

病いの克服 日本痘瘡史

川村純一著

古代より人類を苦しめた痘瘡(天然痘)が根絶されるまでの歴史を、膨大な史料から描き出す。【内容】痘瘡の称呼の変遷／痘瘡の起源と伝来／痘瘡の流行／痘瘡の犠牲者／痘瘡の医学／種痘／痘瘡にかかわる民俗／文芸作品に見る痘瘡／痘瘡の根絶／人類は再び痘瘡に襲われることはないか

▶A5判・400頁／定価4,935円

ISBN4-7842-1002-4

文学に見る痘瘡

川村純一著

古来から、人々は痘瘡(天然痘)と戦い、多くの犠牲を払ってきた。また一方では痘瘡神が祀られ、多くの民俗行事が発達するなど、痘瘡と馴れ親しんできたともいえる。平安朝から昭和まで、主に江戸時代を中心に46の文学作品を通じて、当時の民衆の痘瘡に対する疾病概念および医療事情を浮き彫りにする。

▶A5判・300頁／定価5,250円

ISBN4-7842-1323-6

*中国における妊娠・胎発生論の歴史

中村禎里著

生命そのものに対する日本人の理解の歴史を探るための前提となる、中国文化およびインド仏教における妊娠・胎発生論の歴史を通史的に叙述。生から死に移る過程や死観に集中している日本の生命観の研究に一石を投じる。【内容】戦国時代秦漢代／六朝隋唐代／五代宋金元代／明清代／仏教経典における妊娠・胎発生論 他

▶46判・256頁／定価2,940円

ISBN4-7842-1295-7

江戸期文化人の死因

杉浦守邦著

日本の歴史に名を残した人々が、どのような病気にかかり、どのように対処しながら一生を終えたのか。日記・書簡・肖像画などのさまざまな資料から22名の死因を読み解き、江戸期に活躍した文化人たちの生活を浮き彫りにする意欲作。【掲載人物】中江藤樹／山鹿素行／井原西鶴／近松門左衛門／新井白石／荻生徂徠／荷田春満／賀茂真淵 他

▶A5判・340頁／定価2,625円

ISBN978-4-7842-1422-8

茶の医薬史 中国と日本

岩間眞知子著

もともと茶は薬であった。日本や中国の歴代医薬書の中には茶の記事があり、そこには茶の効能や処方のほか異名・産地・製法も記されている。本書は、中国と日本の医薬書史料の影印を多数収録し、それらの史料から中国・日本の各時代における茶の様相とその歴史の変遷を明らかにする。

▶A5判・526頁／定価9,450円

ISBN978-4-7842-1463-1

東アジアの本草と博物学の世界(上・下)

山田慶兒編

日本で遭遇した東の本草学と西の博物学。それらにおける知的冒険の展開を、学問・産業・芸術のような分野への影響を含めて、多角的に考察した21篇。【内容】徳川吉宗の享保の改革と本草／江戸時代の鳥獣とその保護／本草学と植物園芸／イスラム圏の香料薬種商 他

上▶A5判・364頁／定価7,875円

ISBN4-7842-0883-6

下▶A5判・376頁／定価7,875円

ISBN4-7842-0885-2

*天然痘根絶史 近代医学勃興期の人びと

深瀬泰旦著

ジェンナーによって発明された牛痘接種法は、日本においてはお玉ヶ池種痘所において実践され、蘭学という学問を普及させる上での確固たる拠点となった。それは、日本近代医学の誕生、今日の医学・医療の興隆の礎ともいえる。天然痘の根絶をみざす人びとに焦点をあてながら、この近代医学勃興期とも呼べる時代を活写する。

▶A5判・450頁／定価8,925円

ISBN4-7842-1116-0

在村蘭学の研究

青木歳幸著

信濃において、医師による医療の広がりや医師の組織化、医療の近代化等の医療をめぐる歴史的变化に、在村蘭学がどのように関わっていたのか、江戸時代の地域社会のなかでどのような歴史的展開をたどったか、とくに庶民生活とどう関わっていたかを明かすとともに、蘭学の全体像にたいしての位置付けと見直しにとりくんだ成果。

▶A5判・460頁／定価9,030円

ISBN4-7842-0963-8

医療福祉の祖 長与専斎

外山幹夫著

長与専斎は長崎に近い大村藩に生まれ、長崎・大坂で学び、長崎医学校(長崎大学医学部の前身)の初代校長となった人物である。日本近代の医療・衛生・福祉の確立者ともいべき長与専斎の生涯に焦点をあて、明治新政府の政策のなかで近代医療福祉制度がどのように整備されていったのか、専斎の果たした功績に即して紹介する。

▶46判・200頁／定価2,100円

ISBN4-7842-1107-1

緒方惟準伝 緒方家の人々とその周辺

中山沃著

緒方洪庵の嫡子で、ポンペ、ボードインらに学んだ惟準は、宮廷医療への西洋医学導入、大阪大学医学部・軍医学校の前身創設、大阪での医療基盤確立などに貢献。その自叙伝「緒方惟準先生一夕話」を軸として、著者が博搜した資料とともにその生涯と交遊を詳述。幅広く網羅された本書は、幕末・明治初期の医学界をも物語る基本図書である。

▶A5判・1018頁／定価15,750円

ISBN978-4-7842-1563-8

日本梅毒史の研究 医療・社会・国家

福田真人・鈴木則子編

ペニシリンの出現で「過去の病」のイメージすらある梅毒だが一。いまなぜ梅毒か。日本人は自らの身体や性、性感染症とどう対峙してきたのか。「家」・共同体・国家、さらに国際社会がどのような形でそれに介入し、その態度を変容させてきたのか。これらのテーマをめぐって専門領域を異にする研究者が行なった共同研究の成果9篇。

▶A5判・392頁／定価7,350円

ISBN4-7842-1247-7

*脚気の歴史 ビタミンの発見

山下政三著

ビタミンの発見の背景には、それ以前の世界各地における長い脚気との闘いの歴史があり、また日本の漢方脚気医学の陰の貢献があった。エイクマン以後多くの人たちによって追試が行われるとともに、鈴木梅太郎のオリザニン、フンクのビタミンなど、さまざまなビタミン発見の伝説も語られる、20世紀医療文化史。

▶A5判・540頁／定価14,700円

ISBN4-7842-0881-X

*近代医療のあけぼの 幕末・明治の医事制度

青柳精一著

日本の医界は近代における大事件をいかに乗り越え、発展してきたのか。遣外使節団の病院視察から、ドイツ医学の導入および医学校の創設、看護師・女医の誕生、医師法の制定と、よりよい医療を求めた先達のあゆみをたどる。幕末・明治の医事制度と社会背景について膨大な史料をもとに考証する。

▶A5判・576頁／定価4,935円

ISBN978-4-7842-1583-6

現代医療の原点を探る 百年前の雑誌「医談」から

前田久美江著

明治26年～41年に刊行された私立奨進医学会の機関紙「医談」は、近代医療制度が確立していく過程における医学界を垣間見る貴重な史料である。本書は『医談』の記事の抄録で構成し、江戸から明治にかけての日本の医療事情や教育環境がどんな状況であったか、その中にあって医師がどう行動し、何を考えていたかを浮かび上がらせる。

▶46判・312頁／定価2,625円

ISBN4-7842-1193-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。

電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。